

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・中学入学時点で英語に苦手意識を感じる生徒がいる。
→相手を大切にすることを高め、間違いを恐れず相互理解を深めながら言語活動が行われる授業づくりを行う。(ペア・グループでの学び合いを主として行う)
- ・「聞くこと」に関しては、ある程度の力があるが、「話すこと」「書くこと」に対しての力が弱い。特に自己表現を苦手と感じ、英作文の自己表現ができない生徒がいる。
→「話すこと」「書くこと」における発信力を強化する言語活動を充実させて、自分の考えや思いを適切な英語で表現させる指導を実践する。

具体の取組の内容

【本校英語科の授業を受ける心構え】

- ①予習は必ずしてください。(新出単語の意味を調べ、本文を写してくる)
- ②授業中はしっかり集中して英語をたくさん使おう。
- ③ALTと積極的に話そう。(休み時間なども)
- ④その日に習ったことを復習しよう。
- ⑤英語は慣れることが大切。繰り返し練習しよう。(読み、書き、聞き、話す)

○学習形態の工夫

- ・指導のねらいに応じて一斉学習、ペア・グループ学習、個別学習など多様な学習形態で授業を行う。

○統合的な言語活動を通じた表現力の育成

- ・帯活動や新出文法導入時のインプット活動、アウトプット活動などでQ&AやSmall Talk, Small Debateを段階的に取り入れ、相手を意識しながらやり取りをする活動を通して即興性のある表現力を身につける。
- ・Story RetellingやRe-Productionなど、文章の内容を整理し、行間を読み、さらに自分の考えも含めて表現できるように深めていく。また、相手にわかりやすく伝えるという目的意識をもって言語活動を進めることによって、互いの表現力を豊かにする。

○Can-Do リストの活用

- ・Can-Do リストの見直しを行い、各単元の目的を具体的に生徒に示すことで、学習意欲の向上を図る。



成果①

平成30年度埼玉県学力学習状況調査

【中学2年生】

本校 63.6(8-A) 県65.4(8-A)
聞くことに関しては、73.5で県の72.9を上回るが、書くことでは58.7で61.8の県を下回る。また、言語や文化についての知識・理解も54.8で59.5を下回る。

【中学3年生】

本校 58.1(10-C)
※平成29年度同集団の結果 57.5(8-B)
同集団における学力の伸びが大きく見られた。また、昨年度は全ての項目で県平均を下回ったが、本年度は「聞くこと」や「外国語理解の能力」において、県平均と同等、またはそれ以上の成果を上げている。

成果②

【生徒】

授業で間違いを恐れず積極的に発言する生徒が増えた。歌を意欲的に歌ったり、ペアでの活動では表現を変えた問答をするなど、自己表現することの楽しさと、他の生徒の考えや思いを受け入れる授業の雰囲気ができた。

【教員】

教科部会を行う回数が増え、各自の教材研究の共有化、お互いの授業の課題や工夫点の話合い、積極的な授業参観を通して、指導方法の工夫・改善を図ることができた。

【管理職より】

中学校3年間の学習の継続性をこれまで以上に意識した授業を実践するようになってきた。また、学び合いの視点を入れた授業を取り入れた授業展開を全学年で行っているため、指導法についても共通性が図られるようになってきた。

今後の課題・方向性

本年度、小・中学校間の連携を推進した。今後、小学校から中学校へのスムーズな外国語学習の流れを作り、それを高校へとつなげていくことが大きな課題のひとつである。本校は2つの小学校から児童を受け入れるため、3校での共通の目標や授業の取組などの情報交換を密に行っていくことが大切である。現状の課題にもあるが、中学に入学した時点で英語を苦手と感じる生徒がいなくなるよう、小・中学校での連携をより深めていく必要がある。現在小学校で始められている「書き取り練習」や「フォニックス指導」は、文字と音との関連性を早い段階から理解させる上で有効であり、中学校での音読指導へ円滑な連携が期待できる。教科を好きになること、興味を持つことが、各技能(読む、書く、話す、聞く)の力を引き上げていくための素地であると考えられる。主体的、対話的で深い学びの実践に向け、今後も「学び合い学習」を基盤とした授業の研究を重ねていく。